

大きな目の 愛くるしい魚

山口敦子教授による人気コーナー。今回は魚に加え『グラバー図譜』についても解説していただきました。「クルマダイは、日本沿岸から東インドや西太平洋にかけての温暖な海域の水深八十〜二百三十メートルに生息するキントキダイ科クルマダイ属の魚です。最大全長は二十四センチと小さいですが、体高が高く扁平な体は脱落しにくいところに覆われ、太く強大な鱗棘を備えた背鰭や腹鰭を広げた様子は甚だ立派です。このいささか強靱な体に対して、すこぶる大きな目がかわいらしい！このギャップが何とも言えません。英名を Japanese bigeye というのも納得です」。

デフォルメしたような大きな目ですが、実物もそのままなんです。「体側には太く赤い四本の横帯があり、背鰭、臀鰭、尾鰭の後端が黒くない点で、ミナミクルマダイやオキナワクルマダイと区別できます。極めて美味で、刺身や塩焼きなどで食することができるものの、散発的に漁獲されることから市場価値は高くありません。小エビや小魚を食べることが知られていますが、生態に関する情報はほとんどありません。クルマダイとは車輪のことを指すもの

で、『魚名考』（榮川省造著）では、「幼魚の白色横帯が、輪の如く体表を回っていることからの呼名であろう」と説明しています。本種の地方名には由来不詳のギンパチ(富山)の他に、口が大きいことを指すエグレ(鹿児島)、赤色の魚の意でカネヒラ(高知)やカゲキヨ(千葉・神奈川県)、ベニダイ(和歌山)などがあります」。

『グラバー図譜』中の 最高傑作!?

「日本四大魚譜の一つに数えられている『グラバー図譜』は、米国の大学で生物学を学んだ倉場富三郎(Thomas A. Glover)氏が明治末から昭和初期の約二十五年間で五人の画家を雇い、自社のトロール漁船により長崎魚市場に水揚げされた魚をグラバー邸に持ち込み、形態から色彩やうるこの数まで正確に描写させた八百六図の生物画から成ります。ちなみに水産学部では、生物を詳細に観察し記録するために生物画を描く授業があるので、学生たちはこうした図を描くことの難しさをよく知っています(笑)」。

生物画を描く授業があるのです。「さて、今回は美術画としてのクルマダイ魚図にご注目ください。この図譜を描いた長谷川雪香氏は、初期

の画家である小田紫星氏が約一年で急逝したことにより途中から加わった唯一の女流画家です。細部まで正確に描写している生物画としての完成度の高さに加え、新鮮さや躍動感、魚の品格までも表現し、感動すら与えてくれる長谷川氏の魚図は、本当に素晴らしいと思います。本学貴重図書室に収蔵されているクルマダイの原画を間近に見たときには、赤い魚なのに、よく見ると黄色の絵の具が繊細に重ねられることで輝くような色彩を与えていることに気が付き、思わず息をのみました。その時の感動は今でも忘れられません。

以前図書館で開催されたグラバー図譜展をお手伝いしたとき、美術の見地から研究している方がいらっしやることを知りました。その嘉松聡先生は、図譜に使用された紙の厚さが図ごとに違うことに着目し、絵の具を重ねて長時間かけて描く場合に厚い紙を使っていたと考察するなど、各画家の技法や画材の特徴を比較した興味深い論文を発表されています。一部紹介しましょう。『鉛筆の下書きを見つけないとできない。自身が見ている対象を淡々と絵の具で再現している。小田紫星のように省略や強調による抑揚、骨格や鮮度を感じさせようとはしておらず、それは究極の装飾的描写である。(中略)鱗の黄色いハイライトは面相筆の先端を使い、粒状の極少量の絵の

具を一定の筆圧で乗せるように置いている。それ故に、絵の具の発色が保たれ、蛍光色のような色彩を持った魚図となっている」。他の画家が生時の色彩を再現するためにほぼ一日で魚図を描いたのに、長谷川氏はニシキエビを八日間描いたというエピソードもあるくらいで、クルマダイも一日で描ける描画密度ではないといえます。百四十七図と他の画家に比べて少なかつたのも、そのためだったのかもしれない。図ごとに作風が異なるのもこの図譜の魅力の一つ。その奥深さや価値を知ること、つれ、ますます『グラバー図譜』に魅せられています」。

『グラバー図譜』は長崎大学の貴重な財産ですね。

【参考文献】
嘉松聡「日本西部及び南部魚類図譜」(通称「グラバー図譜」および図譜描画に関する「考察」文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要「第四十集」二〇一七年、六十一〜六十八頁。
榮川省造「魚名考」甲南出版社、一九七四年



解説 山口敦子
長崎大学水産・環境科学総合研究科教授

Atsuko YAMAGUCHI
東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に「干潟の海に生きる魚たちー有明海の豊かさと危機」(東海大学出版)など。



Glover Atlas クルマダイ

Pristigenys nipponia
画家 長谷川雪香

グラバー図譜
日本西部及び南部魚類図譜
Fishes of Southern
& Western Japan

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

「グラバー図譜」は、長崎の実業家であった倉場富三郎氏が編集したコレクションです。日本四大魚譜の一つといわれています。